

見 学 調 査 報 告 書

テーマ : 食品企業における経営戦略および調達物流における GHG 排出量の削減対策
ゼミ名 : 木立 真直 ゼミ
調査日 : 2024 年 5 月 20 日 (月)
調査先 : 日清製粉グループ
授業科目名: 演習 I・II
参加学生数: 19 名 (3 年)

調査の趣旨 (目的)

ゼミナールでの流通・マーケティングに関する学びを基礎に、実際に企業に訪問し、経営戦略およびロジスティクス戦略についてプレゼンをしていただき、経営戦略やロジスティクス戦略についての理解を深める。

調査結果

【概要】

日清製粉グループ本社および日清製粉ウェルナから、会社概要、ロジスティクス戦略、物流 2024 年問題への対応についてプレゼンをしていただいた。その後、原材料調達業務の課題解決「GHG 排出量を削減するために取り得る手段」についてグループディスカッションを通じて提案を取り纏め、それに対し社員の方々よりフィードバックをいただいた。

【日清製粉グループについて】

日清製粉グループは、小麦粉を扱う食のインフラカンパニーであり、製粉、加工食品、中食・惣菜、健康食品、酵母・バイオ、エンジニアリング、メッシュクロスなど広く事業を展開している。

【ロジスティクス部について】

ロジスティクス部は、原料の生産地から製品を販売する消費地までのサプライチェーンの全体最適化を目的とする事業部である。具体的には、需要を予想し、工場の生産（供給）を調節し、倉庫の設置や運送の計画を立てて、物流管理を行っている。

【物流 2024 年問題に対する日清製粉ウェルナの対応】

物流 2024 問題とは、2024 年 4 月から働き方改革関連法の適用により、ドライバーの労働時間が制限されるため、物流の担い手が不足し、モノが十分に運べなくなる可能性があるという問題である。こうした事態に対し、日清製粉ウェルナでは F-LINE プロジェクトに取り組んでいる。F-LINE プロジェクトとは、他の食品メーカーと連携し、各種の物流対策を進めていくプロジェクトである。納品先の少ない低密度エリアでの共同物流が行われている。

【各グループの話し合いの結果とFBの概要】

《A チーム》概要：九州に原材料の保管能力を持つ倉庫を設営する→ FB：新しく倉庫を設営するよりも、今あるものを拡張させる方針で進めたほうが現実的である。

《B チーム》概要：高層ビルに畑など作る PlantFactory 構想で、地産地消の比率や自給率を高める→FB：かかるコストと得られるリターンを天秤にして考える必要がある。現状だとコストが掛かりすぎる。

《C チーム》概要：運送手段をトラックから鉄道に変える→FB：モーダルシフトの視点は素晴らしい。今まさに検討が必要なことであるが、現状ではコスト問題がある。ただし、今後どこかのタイミングで、モーダルシフトは必ず実行が必要な課題である。

《D チーム》概要：遠隔地の地区倉庫に中央倉庫と同じ機能を備え付ける。また、ヨーロッパに営業所を設置し、ヨーロッパ各国の物品をまとめて日本に送る施設を整備する。生産拠点を集約し、自社での生産の効率化を図る。→FB：九州などの遠隔地の輸入港から地区倉庫への輸送について非効率なフローに注目したことは良い視点である。検品など中央倉庫でしかできない業務を地区倉庫にどう備え付けるかの検討は必要である。

以上、日清製粉グループ本社および日清製粉ウェルナの皆様からは、大学では得られない貴重なコメントやご教示をいただいた。心からお礼申し上げます。



写真 1 経営戦略プレゼンに参加



写真 2 最後に集合写真